

友史会2024年5月例会

令和6年度春季特別展「家形埴輪の世界」第2回研究講座

令和6年5月12日(日) 13:00～16:30

檀原考古学研究所 講堂

(講演)

「今城塚古墳と畿内の家形埴輪」 今西康宏(高槻市)

「古市古墳群と周辺の家形埴輪」 泉 眞奈(藤井寺市教育委員会)

「古墳時代の王宮の構造と立地－家形埴輪との関係で－」

古市 晃(神戸大学)

(感想文)

「家形埴輪の世界」の研究講座を聴講して

5月12日、現在開催中の春季特別展「家形埴輪の世界」の研究講座の2回目が開催されました。あいにくの小雨がぱらつく天気にも関わらず、開場の12時にはすでに講堂の前には行列ができて皆さんの熱心さに驚きました。

最初のお話は高槻市の今西康宏氏による「今城塚古墳と畿内の家形埴輪」について。今城塚古墳は6世紀前半の墳丘長190メートルに及ぶ大型前方後円墳。継体天皇陵と言われるものの宮内庁の比定がないお陰(?)で発掘調査が行われ多くの発見があったそうです。資料には墳丘復元図やどこからどんな埴輪が出たかの一覧図が付されており、詳しく古墳や出土品の様子を知ることができました。様々な形の屋根を持つ家型埴輪が

復元可能なものを含め20棟あったこと、屋根と下の部分を別々に造り組み合わせる分割焼成技法で作られた例があったなど興味深い話が続きます。最大の入母屋造の家形埴輪は、展示を拝観しその大きさに驚きましたが、その出土は研究者をどれだけ興奮させたかがうかがえました。

続いて藤井寺市の泉眞奈氏の話は「古市古墳群と周辺の家形埴輪」。家形埴輪についてこんなに詳しく話を聞いたのは初めてで、泉氏の研究成果とも言うべき、古市古墳群の古墳の墳形、規模、出土遺物、年代等についての一覧表や、屋根部の接続方法の図や説明はわかりやすく、全く家形埴輪を知らなかった私でも、理解し易いものでした。そして今後、家形埴輪を見る時の参考になりそうな素晴らしい資料に感謝でした。

休憩をはさみ、最後は神戸大学の古市晃先生による「古墳時代の王宮の構造と立地－家形埴輪との関連で－」というお話は文献史料研究の立場から古代王宮の名前により場所を読み解いていくというものでした。昨今、記紀が政治色の強い作られた歴史書ではないかと言われている中、王名と王宮の名前にはそれほど政治性は及んでいないのではないかと考えながら王宮の場所を特定していく話に引き込まれました。そして文献資料だけでは王宮の建物の詳細まではわからないが、発掘された家形埴輪がその空白を埋める手立てとなる楽しさを教わったように思います。

家形埴輪は研究者も少なく、実態もまだわかっていないことが多いとか。話を聞いた後、もう一度あわてて閉館間際の展示を見に行き感動を新たにさせられました。素晴らしいお話と、よい資料が手に入ったことに感謝でいっぱいです。

奈良市 新島弓美子